

食事

* 『保育所ですすめる離乳食マニュアル』を参照

1) 離乳食の注意事項

- (1) 家庭での食事の献立、食べている食品の品名など確認しながら進める。
- (2) なるべく手作りを心がけて、ベビーフードを使用する場合は、添加物を考慮しながら必要に応じて（レバーや野菜等）使用する。
- (3) 個人差に応じてすすめる。
- (4) 飲食は、調理してから2時間以内にする。
- (5) 粉ミルクは、①開封した日付を缶に記入し、50gの検食をとる。
（開けたミルクを使い切るまで冷凍保存）
②缶や箱に印字されているロット番号や数字などを衛生管理チェックリスト・検食状況（離乳食用）もしくは離乳食献立実施表に記入しておく。
③最後の50gと開封時にとった50gを、冷凍で保存し、2週間後に廃棄する。
④消費期限を過ぎた粉ミルクは、廃棄する。
- (7) 冷凍した食材（粥・野菜を煮た物等）は、一週間以内に使用する。
- (8) 冷凍母乳希望の保護者については、衛生面等を考慮し保健師・栄養士と相談する。

(参考) 病気のときの食事

	下痢	便秘	かぜ	のど痛	発熱	嘔吐
牛乳	×	○				×
ヨーグルト	×	○				
玉子			○	○	○	
とうふ	○		○	○	○	○
りんご	○	○			○	○
みかん	×	○		×		×
なし・スイカ	×	○			○	
じゃがいも	○	○				
さつまいも	×	○				
ゴボウ・タケノコ・セロリ	×	○		×		×
にんじん	○	○				
だいこん	○	○				
納豆・煮豆	×	○				×
油脂(揚げ物・ドレッシング)	×		×			×
ラーメン	×					×
スナック菓子・菓子	×	×		×		×

※良い食品 ○ 避けたい食品 × 症状によって違う食品 無印

2) 飲料水の与え方

- (1) 0歳児は、湯冷まし。
- (2) 1歳以上は、水道水。
- (3) コップ、ストローは、離乳食後期に使用。ただし、家庭で使用している場合は、その時点で使用する。

3) 離乳食・卒乳について

- ・ 1歳を過ぎて、家庭ではミルクしか飲んでいない児がいる。いきなり幼児食はむずかしく、咀嚼への影響があるため、個別にすすめる。
- ・ 卒乳の時期については、いろいろな見解があり、保護者の思いを受け止める。

担当制

担当制とは・・・特定の子どもを特定の大人がみるシステムのこと。少人数の子どもに保育士が関わることで、子どもの発達段階や情緒面での適確な援助ができる。

担当制のメリット

- * 子どもとの人間関係が深まり、一人一人の育ちをじっくり見られる。
- * 特定の人言葉を聞き分け、共有し、言葉を獲得していくことができる
- * クラス人数が多い場合には、少人数にすることで、家庭的な雰囲気味わえる保育ができる。
- *

担当制について

① 担当制を取り入れるにあたっての留意点

- ・ 保育士間の十分な話し合い、共通理解が必要である。
- ・ 子ども的人数・職員数・職員構成を考慮し、よりよい方法を考える。

② 担当制を決めるには

- ・ 生活面で取り入れる。(授乳・離乳食・オムツ交換・睡眠など)楽しさが先行する遊びの面で他の保育士と関わることで関係を広げていく。

③ 担当制の方法

- ・ 0歳児は、生活リズムの違う子を組み合わせ、個々の状態に余裕をもたせる。

- * 複数担任・ローテーション体制・地域性などいろいろな条件を考慮し、

柔軟なグループ担当制をとることが望ましい。

